

平成30年7月豪雨 被災地の支援はいま 情報共有・意見交換会

2018年9月18日(火)

18:30~20:30

市民活動プラザ星園 2階中会議室 参加費無料

▶6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国各地に大きな被害をもたらした、平成30年7月豪雨。多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。西日本、特に広島県や岡山県では被害が大きく、台風の接近を不安に感じながら、いまなお懸命に復興に向けた取り組みが続けられています。

▶現在、岡山県では、岡山市と倉敷市が県外からの災害ボランティアを受け入れています。「倉敷市災害ボランティアセンター」はウェブサイトを設けて、ボランティアの参加方法や必要な人材・物資・資金の情報、災害ボランティア活動を支援する情報等を発信しています。

▶北海道にいる私たちは、こうした情報を通じて被災者支援の一端を知ることができますが、現場では実際にはどのようなことが起こり、それに対してどのように活動が進められているのでしょうか。災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)の要請により、数度にわたり、倉敷市災害ボランティアセンターの運営支援に携わっている、一般社団法人 Wellbe Design の篠原辰二さん(写真)にお話をうかがい、情報共有・意見交換会を行います。



主催：特定非営利活動法人 北海道NPOサポートセンター
※本事業は、公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団の助成事業の一環として開催します

平成30年7月豪雨 被災地の支援はいま 情報共有・意見交換会

- ▶ 日時：2018年9月18日（火）18:30～20:30
- ▶ 会場：市民活動プラザ星園 2階中会議室（札幌市中央区南8条西2丁目）
- ▶ 定員：45名
- ▶ 対象：NPO/NGO、中間支援組織、社会福祉協議会、自治体、企業ほか関心のある方
- ▶ 内容：災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（通称：支援P）※1の要請により、数度にわたり、倉敷市災害ボランティアセンターの運営支援に携わっている、一般社団法人 Wellbe Design の篠原辰二さんにお話をうかがいながら、支援現場の現状を知るための情報共有をはかり、これからに向け、参加者による意見交換を行います。

※1「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」とは

企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会が協働するネットワーク組織。

2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置された。

- ▶ ゲスト：一般社団法人 WellbeDesign 理事長 篠原辰二氏



学生時代はNGO活動を通し発展途上国における支援活動を行い、卒業後は北海道内2つの市町において計14年間、社会福祉協議会職員として勤務。地域の特性を踏まえた各種の地域福祉事業や地域防災事業の経験を踏まえ、地域住民と共に創る福祉のまちづくりに関する各種の事業を展開するほか、地域福祉活動の担い手育成やコミュニティソーシャルワーカー等の対人援助職に対する人材育成事業を展開。大規模災害発生時には、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（略称：支援P）からの要請に基づき、災害ボランティアセンター運営の支援に当たる。社会福祉士。防災士。道都大学社会福祉学部卒。1976年生れ。伊達市出身。

- ▶ お問い合わせ・お申し込み

特定非営利活動法人 北海道 NPO サポートセンター

■メール info@hnposc.net

件名に「平成30年7月豪雨」と記載の上
1.お名前 2.所属 3.電話番号をおしらせください。

■電話 011-200-0973（平日10時～18時）

■ファックス 011-200-0974

■事務局住所

〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目

市民活動プラザ星園201

※資当日参加も受け付けますが、
資料準備のため、事前のお申し込みをおねがいます。

